

経営方針説明会

2016年6月15日

株式会社 **アーレスティ**

ご説明内容

- ◆ 当社製品のご紹介
- ◆ TOPICS
- ◆ 2016年度計画
- ◆ 経営方針

当社製品のご紹介

当社製品搭載車

◆日産

アルティマ
シーマ
マーチ
フーガ
エルグランド
ムラーノ
セレナ
GT-R
スカイライン
ティアナ
DAYZ
Infiniti
エクストレイル

他

◆SUBARU

レガシィ
レガシィアウトバック
インプレッサ
フォレスター
XV(HV車含む)
BRZ
WRX S/4 STI
LEVORG
エクシーガ

他

◆三菱自動車

ギャランフォルティス
デリカ D:5
RVR
アウトランダー
ランサー
エボリューションX
eKワゴン
eKスペース
TRITON

他

◆ホンダ

LEGEND
フィット(HV・EV車含)
フリード
CR-Z
ステップワゴン
アコード(HV車含)
N-BOX N-ONE
N-WGN
オデッセイ
ヴェゼル
GRACE
SHUTTLE
S660

他

◆アキュラ

RDX
MDX
TLX

他

◆SUZUKI

MRワゴン
パレット
アルト
キザシ
ワゴンR
スイフト
SX 4
スペーシア
ハスラー
セレリオ

他

◆レクサス

HS250
RX450h
LS600h
IS
NX300h
RC/RC F

他

◆TOYOTA

MIRAI
エティオス
ヴィッツ
ラクティス
マークX
センチュリー
ランドクルーザー
タンドラ
エスティマハイブリッド
ベルファイア
RAV4
SAI
ハリアー
クラウン(HV車含む)
カローラUS
86

他

◆ダイハツ

アトレー
ハイゼット

他

◆日野自動車

デュトロ(HV車含む)
レンジャー

他

◆クライスラー

グランドチェロキー
チェロキー

◆フォード

フィエスタ
フォード

◆GM

シボレーシルバラード
GMC シエラ

◆メルセデス・ベンツ

Mクラス
(HV車含む)
GLA

他

◆アウディ

A4L
Q5
A3

◆VW

Golf 7

トピックス

TOPICS

■2014年

- 3月 東京証券取引所市場第1部銘柄に指定変更
公募増資を実施
- 4月 アーレスティメヒカーナ 鋳造工場の増床工事着工
- 6月 広州アーレスティ フォルクスワーゲン グループへの量産納入開始
- 7月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工
- 9月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工
アーレスティメヒカーナ 鋳造工場の増床工事竣工
- 11月 アーレスティウイルミントン増築工事着工

■2015年

- 3月 アーレスティ栃木鋳造工場拡張工事着工
- 4月 アーレスティインディア 、ディーゼル2気筒シリンダーブロック(マルチス
ズキ共同開発品)の納入開始
- 6月 アーレスティウイルミントン増築工事竣工
- 10月 アーレスティ栃木鋳造工場拡張工事竣工

アーレスティウイilmington増築工事

Ahresty Wilmington Corporation

■工場増築工事

2014年11月着工

2015年6月竣工

増築目的

※ 鋳造機2台増設に伴う、鋳造エリアの拡大と倉庫スペースの確保。



拡張部分

2016年5月末現在

(工場面積) 土地 170,000㎡ 建屋 38,912.9 ㎡

(ダイカストマシン台数) 28台

(鋳造能力) 月産1,900トン

(株)アーレスティ栃木 第6工場増築進捗状況

生産量増加に対応した能力増強

- 竣工時期:2015年9月
- 設備工事完了時期:2016年11月
※既に稼働は開始しております。
- 増築面積:1,143㎡
- 設置設備:2250トンダイカストマシン
機械加工設備他
- 生産能力:2,800t/月⇒3,000t/月
200t/月増加予定



第6工場外観

第6工場製造ラインのコンセプト

- 同期化ライン: 鋳造～完成品までの複数
工程を1個流し
- 省人化
- 在庫削減: 工程間の無駄な在庫を削減
- 設備故障予防
- その他製造条件管理



第6工場内

製造ラインのコンセプトを実現し、安定生産、安定納入でお客様に貢献する

2016年度計画

2016年度計画

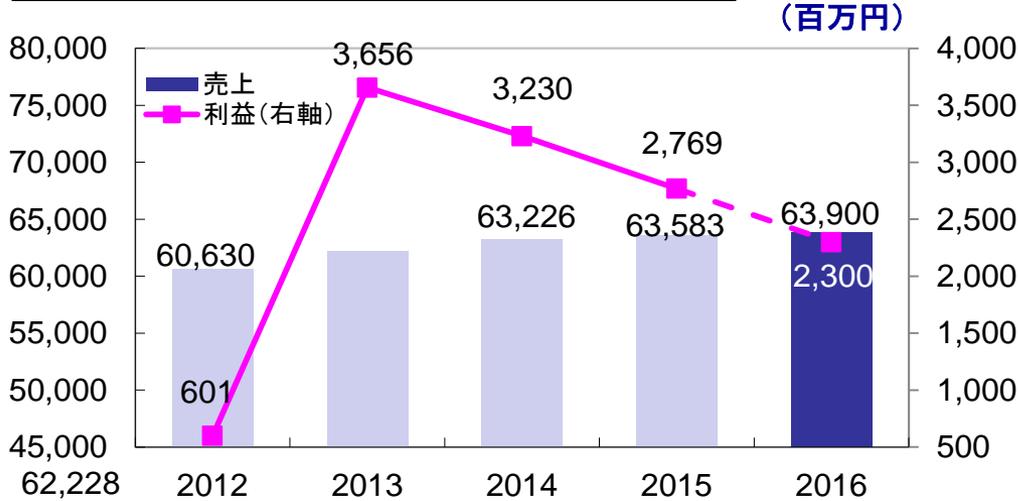
(単位:百万円)

	2015年度 実績		2016年度 計画		増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	144,451	100%	136,000	100%	△8,451	△5.9%
営業利益	5,385	3.7%	5,500	4.0%	114	2.1%
経常利益	4,077	2.8%	4,700	3.5%	622	15.3%
当期純利益	3,062	2.1%	3,100	2.3%	37	1.2%

前期為替レート:米 120.01円/USD メキシコ121.00円/USD 19.21円/人民元 1.84円/インドルピー
 期初の前提為替レート:110円/USD 17円/人民元 1.7円/インドルピー

ダイカスト日本

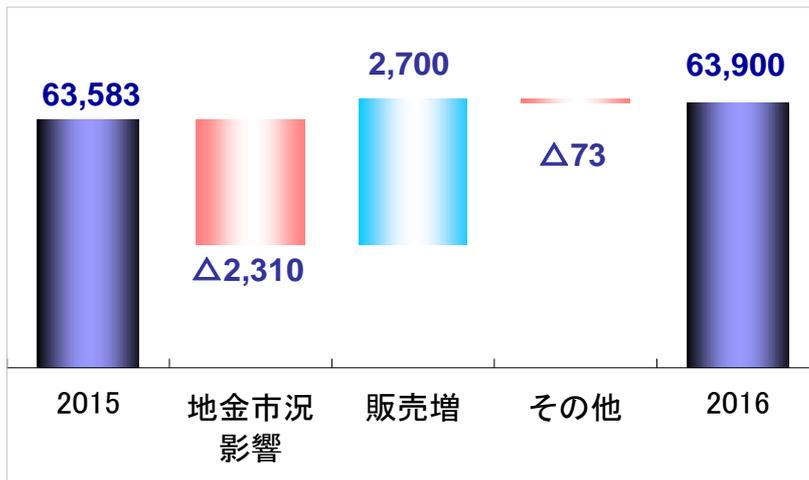
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移



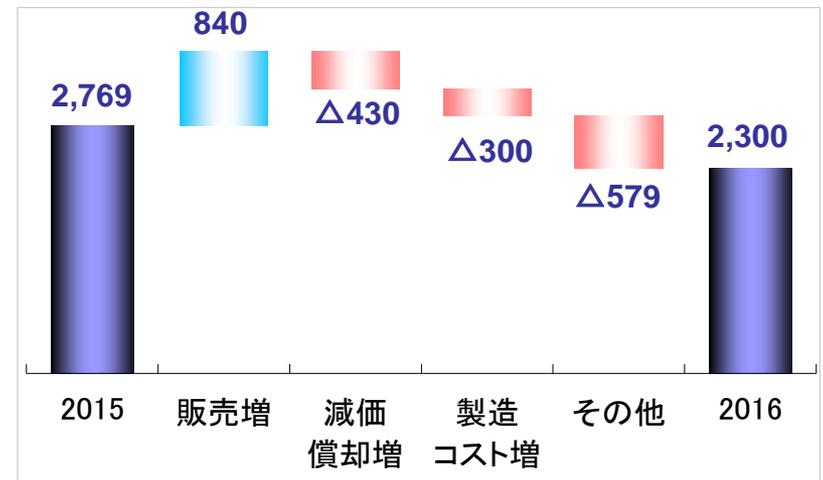
売上高: 消費増税と軽自動車税引き上げによる自動車販売の減速の影響はあるものの受注量は増加する見込み。一方で地金市況の影響を受け、売上高としては微増と予想

利益: 販売量は増加するものの、減価償却費等の増加によりセグメント利益は減益を予想。

売上高増減予測 (百万円)

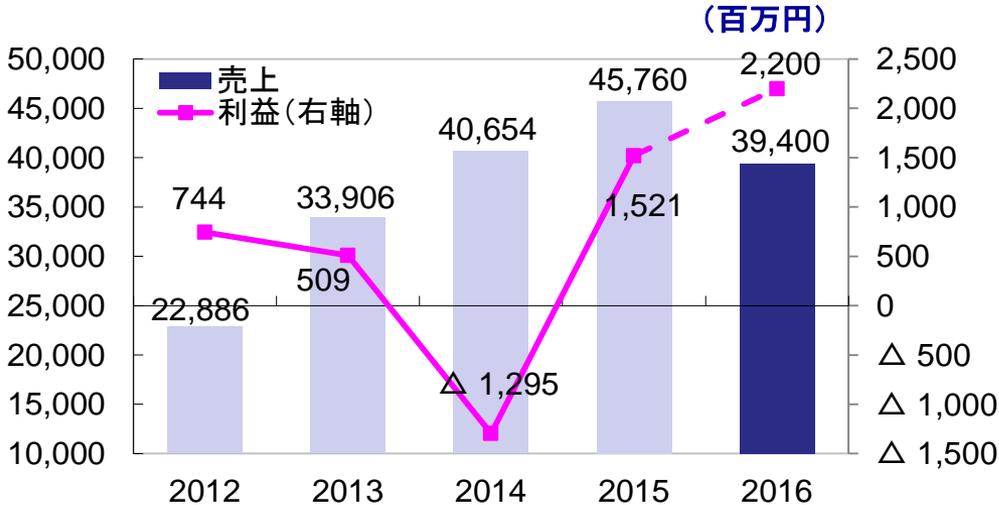


セグメント損益増減予測 (百万円)



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移

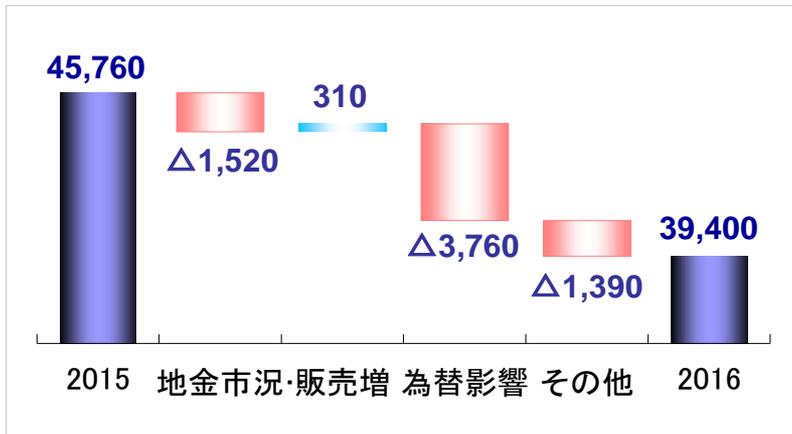


売上高:アメリカでのダウンサイジングの影響やメキシコでの一部顧客の受注量減少の影響もあり受注量は微増。地金市況と円高基調にある為替影響で売上高は減少を予測。

利益:アメリカ、メキシコの収益改善により製造コストの改善が見込まれ増益を予想

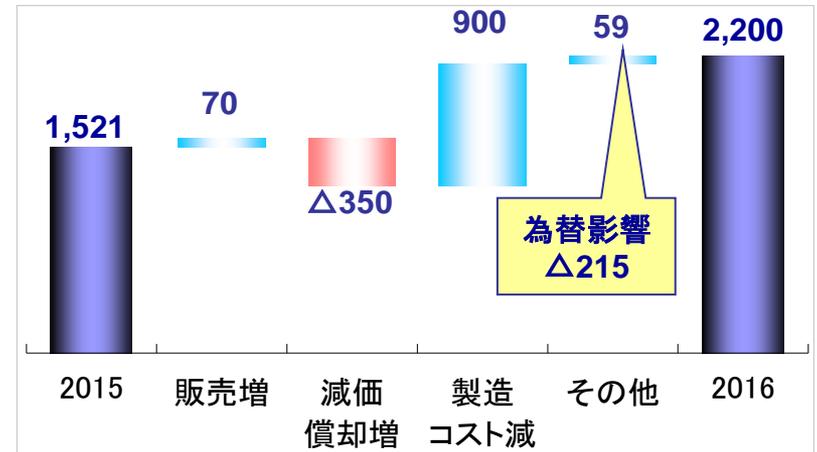
売上高増減予測

(百万円)



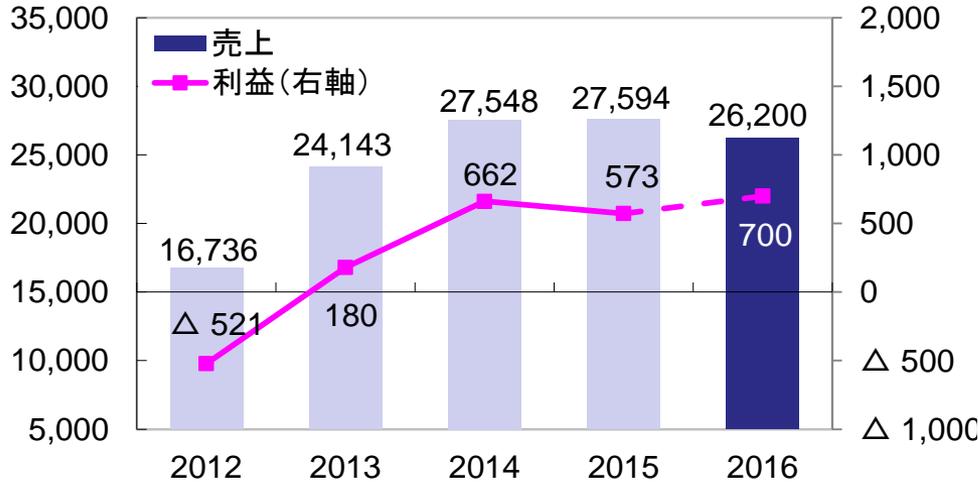
セグメント損益増減予測

(百万円)



ダイカストアジア

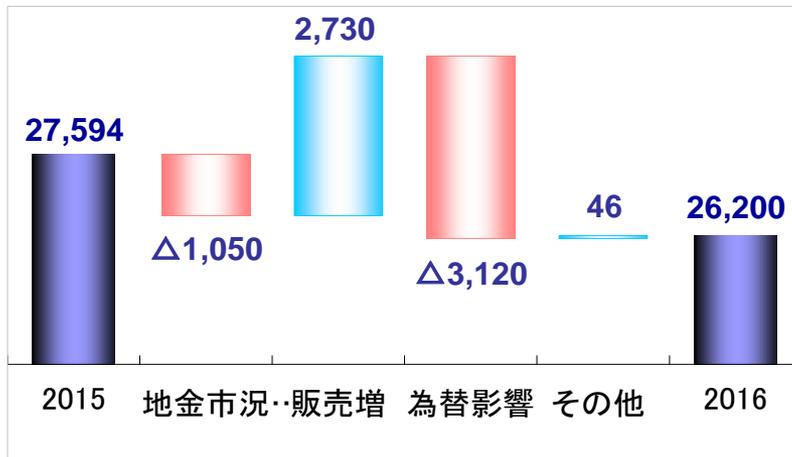
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



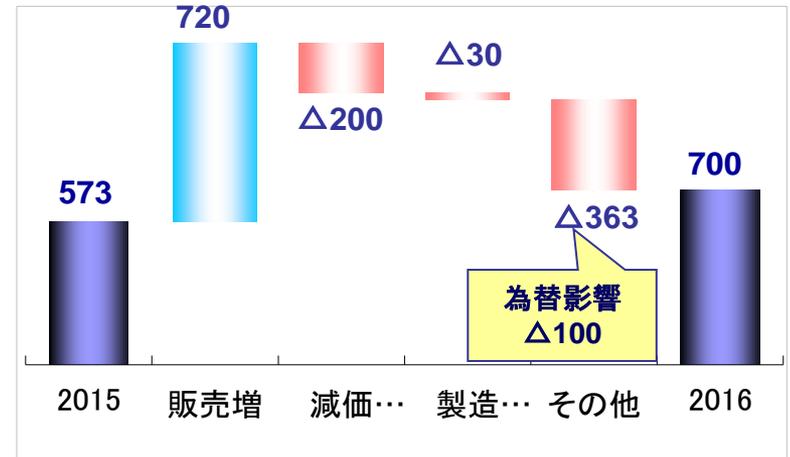
売上高: 前期は中国日系自動車メーカーの車種別販売の影響を受けたが、売上げは徐々に回復し、受注量が増加する見込み。インドも受注量は増加する見込み。一方で地金市況と円高基調の為替の影響で売上高は減少の予測。

利益: 減価償却費や為替影響の影響があるものの、販売量の増加効果により増益予想。

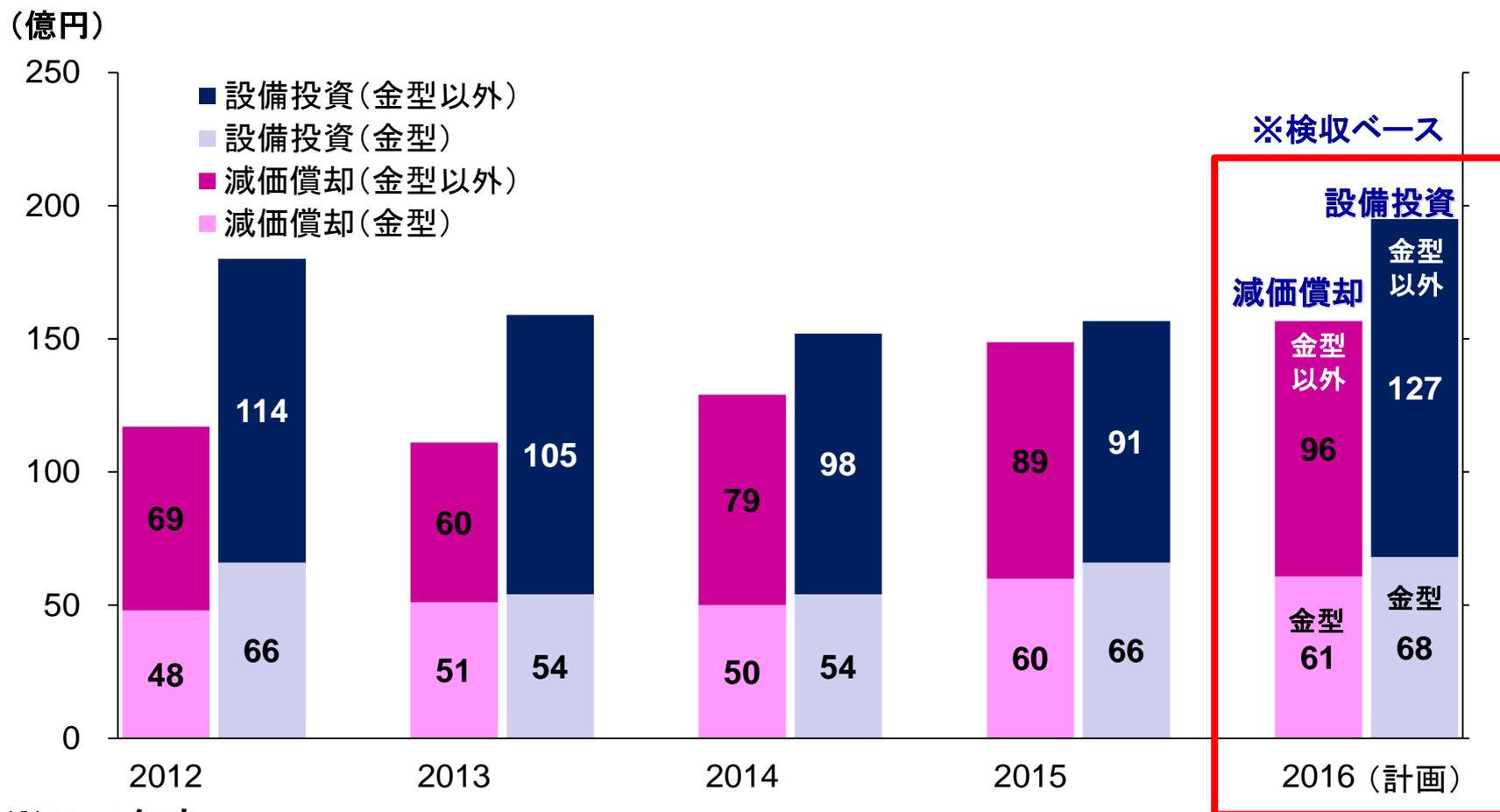
売上高増減予測 (百万円)



セグメント損益増減予測 (百万円)



設備投資・減価償却の動向



※2016年度

投資内容 ダイカスト:能力維持、合理化投資を中心 加工:海外拠点の能力拡充投資を中心

設備投資金額:合計195億円(一般設備投資 127億、金型投資 68億)

配当

(単位:円)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度 予想
1株当たり配当金					
(年間)	3	14	12	14	16
中間配当	3	8	6	6	8
期末配当	—	6	6	8	8
一株当たり純損益(連結)	△7.76	287.10	40.85	118.50	119.94
配当性向(連結)	—	4.9%	29.4%	11.8%	13.3%

- ◆ 2016年3月期は、期初計画の業績を達成できたため、期末配当を2円増配し年間14円の配当を決定
- ◆ 2017年3月期は、年間16円の配当を予想
- ◆ 中長期的な企業成長に必要な経営基盤や配当性向等を勘案した上で、適正な利益還元を推進

1618中期経営計画

1315中期経営計画振り返り

1315中期経営計画の結果と振り返り、次期への課題

最善なものづくりの追求と共有

現場と設計が一体となったものづくりの再構築
全拠点で同一品質、生産性の実現

現場と設計が一体となったものづくりの構築を
推進し、国内外での生産性改善が進んでいる。
グローバルでのしくみの統一が課題

ものづくりを支える人づくり

実践に裏付けされたスキルを持つ人づくり

3現(現場、現物、現実)・2原(原理、原則)に基
づいた活動ができる技術者の育成

専門教育体系に基づく講座の開講、改善実践
教育、国内外の技術者交流会等の施策の推進
により、国内外で技術者が育ちつつある。

ものづくり現場で活かす技術開発

ものづくりを究めるための技術のロードマップに
基づく施策の実施

パワートレイン以外の市場の開拓

技術ロードマップに基づく施策を概ね計画通り
に実施。生産性改善技術、自動車の軽量化に
貢献する技術の蓄積が進んでいる。

健全な利益の追求

持続的な企業成長と成長市場への展開。業務
の効率化、投資効率の高い加工設備構想の実
現。コストの見える化による収益管理レベルの
向上

ものづくり及び収益管理の各施策実施により収
益力改善が進みつつある。更なる収益力安定
のための管理レベルの強化が鍵。

RSTWayを実践し「ものづくり」「ひとづくり」をグローバルに進め安定した収益獲得を目指す。

これまでの推移と1618中計の方向性

10年ビジョンと中期経営計画の推移

「すべてのステークホルダーから信頼されるグローバルトップ企業」をめざす。

ものづくりを究め、ものづくりを進化させる

信頼を究めよう 2025

0910

生き残りをかけた体質改善

1012

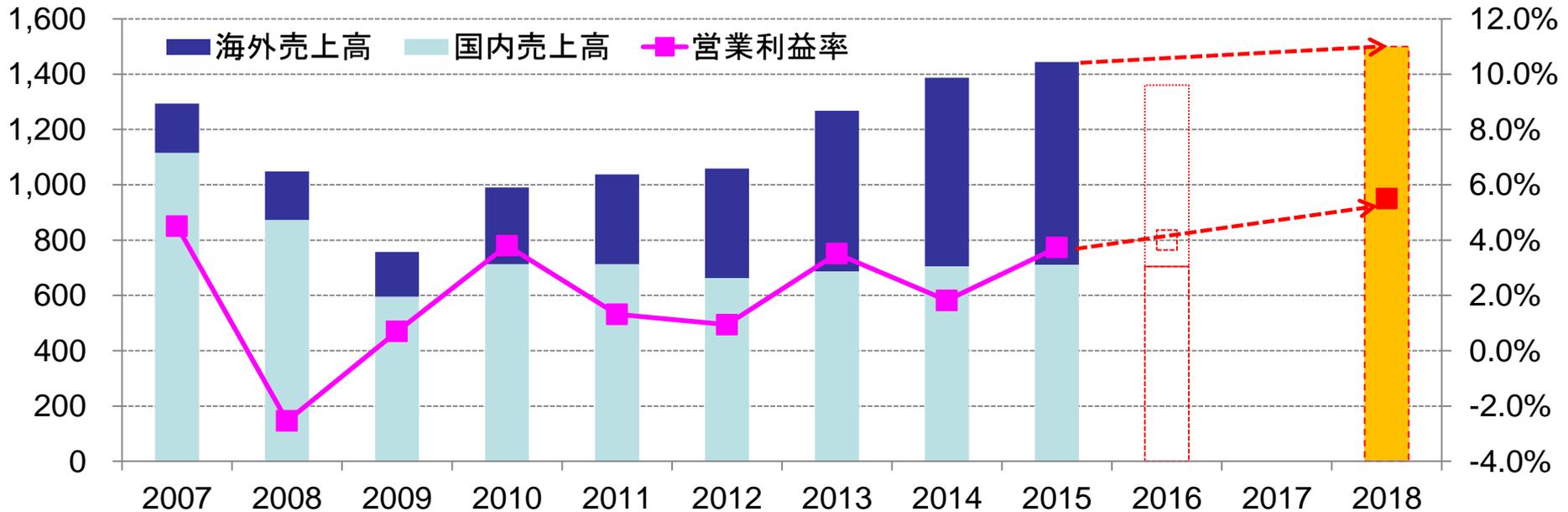
品質を中心においた基盤強化

1315

ものづくりに焦点を当て収益性向上

1618

グローバルで同一ものづくりと品質を実現



自動車需要増加、軽量化によるダイカスト需要の増加によりグローバルでダイカスト事業が拡大。
1618中計では1315中計を更にグローバルで展開し「ものづくり」「ひとつづくり」「収益力強化」を図る

1618中期経営計画の基本方針

アーレスティ10年ビジョン

信頼を究めよう 2025

ありがたい姿

- お客様からの信頼No1
- グローバルで車の軽量化に役立つ
- 売上高2000億+α

1618中期経営計画

大型高難易度製品の
顧客評価No1実現

ものづくりを究める

生きいきと活動する
会社を築く

収益力を高める

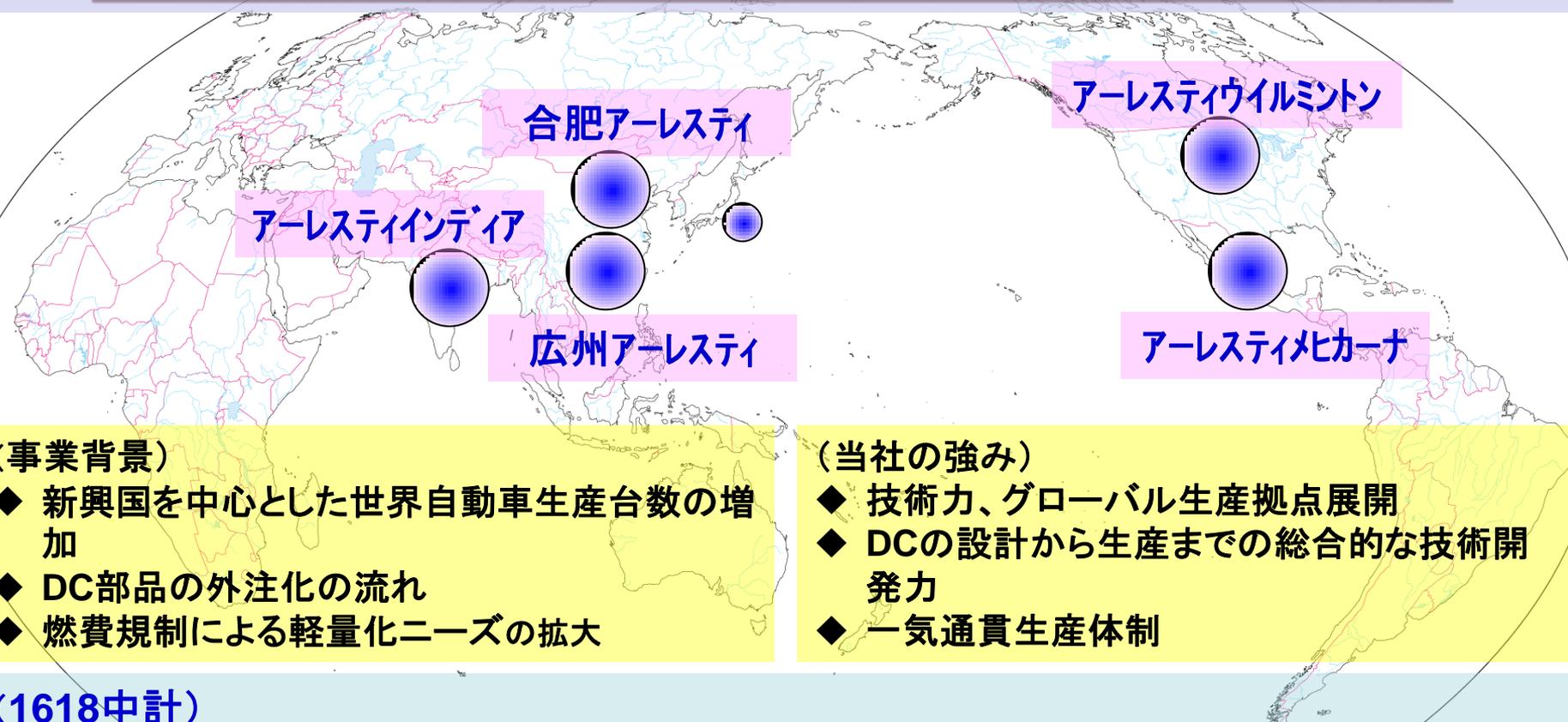
リスク管理を徹底する

●取り巻く事業環境●

- ・新興国を中心とした自動車需要の増加
- ・先進国の需要回復
- ・軽量化によるアルミダイカスト採用増加
- ・少子高齢化に伴う国内における自動車販売減少

大型高難易度製品の顧客評価No1実現

大型で要求品質の高い部品のQCDを向上させることで顧客評価No1を目指す



(事業背景)

- ◆ 新興国を中心とした世界自動車生産台数の増加
- ◆ DC部品の外注化の流れ
- ◆ 燃費規制による軽量化ニーズの拡大

(当社の強み)

- ◆ 技術力、グローバル生産拠点展開
- ◆ DCの設計から生産までの総合的な技術開発力
- ◆ 一気通貫生産体制

(1618中計)

- 大型高難易度製品の営業活動をグローバルで推進。
- 既存の日系メーカーのみならず、欧米系新規顧客に対しても積極的に営業活動を展開
- 投資効率、生産性の優れた生産ラインを構築し、全拠点に水平展開する。全世界でお客様に貢献する。

ものづくりを究める



**グローバルでしくみを統一
同質のものづくりと品質を
実現する**

(事業背景)

世界の自動車生産台数の増加、外注化、部品の軽量化により、グローバルで高いレベルのQCDが求められる。

グローバルレベルでの業務改革・標準化

事業(製品、サービス)あるいは機能(Q、C、Dなど)の目的・目標に対し、付加価値を高めていくプロセスと体制をグローバルで同一の水準で構築する

グローバル基準でものづくりプロセスを確立

製造条件の分析結果に基づく継続的な生産性改善活動と改善結果の他拠点展開でグローバルでしくみを統一

信頼を究める品質保証の確立

各部門、各製造工程で高い品質が保証されるしくみを築く。常にレベルアップを目指す改善活動を継続的に実施

技術のロードマップの実現

技術ロードマップに基づく技術的な課題の解決と他製品や他生産拠点へ水平展開の実施

徹底した製造原価低減活動

更なる生産性向上や効率化・合理化による製造原単位の低減等により、製造原価の低減を実現

生きいきと活動する会社を築く

RSTWayを実践できる企業風土づくりと人材を育成する

RST Wayを実践できる企業風土づくり

ものづくりを究める人材育成

RSTWay

「誠実」「率先」「スピード」「成長」「挑戦」

● RSTWayを実践できる、風通しの良い企業風土を築く

- ✓ 社員のモチベーション向上
- ✓ 社員間の良好な関係構築
- ✓ スピーディかつ正確な情報伝達

コミュニケーションスタイルの確立

表彰・報酬制度、人事評価制度、女性活躍促進
社内広報、マネジメントレベルアップ研修等の刷新

教育体系を整備運用して人材育成を強化

● グローバルRST学園の充実

ものづくりを究める

- ✓ ものづくりを究めるために必要な教育カリキュラムを作成
- ✓ 国内・海外で同レベルの教育が行える環境整備

社員のモチベーション向上
社員の知識、技能のレベルアップ

アーレスティプロダクションウェイの浸透

収益力を高める

1618中期経営計画 経営目標値

売上高
1,500億円

売上高営業利益率
5.5%

総資産当期純利益率(ROA)
3.0%

自己資本当期純利益率(ROE)
7.0%

ものづくりを究める施策で製造原価を低減するとともに、収益管理の質を高める

中長期的な事業発展・企業成長のための財務体質と経営基盤の強化

適正な利益還元

株式会社 **アーレスティ**

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。